

科目名	人間学特殊ゼミ I E (悲嘆学)			学期	前期	単位数	2	担当者	森崎雅好
副題	-								
ナンバリング	N2-10-282	授業方法	講義	実務経験の有無			有	関連DP	1,2,4

授業の目的と概要

グリーフ (grief) とは悲嘆を意味し、悲嘆は喪失から生じる。この悲嘆を受け入れる作業をグリーフワークと言い、グリーフケアとはその作業を支援することにある。本講義では、様々な領域におけるグリーフケアの姿勢の在り方を学ぶ。

授業の到達目標

悲嘆の心理に関する知識を身につけた上で支援時に必要な態度を理解している。

授業計画

1. 悲嘆の定義・理論
2. 悲嘆の理論 (PTSDと複雑性悲嘆について)
3. 犯罪被害者支援① (被害者・加害者の声)
4. 犯罪被害者支援② (被害者・加害者の心理的ケア)
5. 虐めと虐待① (虐め体験について)
6. 虐めと虐待② (被虐体験への心理的ケア)
7. 難病支援① (難病とは・我が国の現状)
8. 難病支援② (生きることの苦悩と受容の心理的ケア)
9. ホスピス・緩和ケアにおける支援① (病と自己)
10. ホスピス・緩和ケアにおける支援② (死を見つめる心理とそのケア)
11. 自死遺族支援① (遺族の心理)
12. 自死遺族支援② (サポートグループについて)
13. 災害時支援① (災害による喪失体験)
14. 災害時支援② (復興期に求められる支援について)
15. 講義内容の総括と振り返り

準備学習 (予習・復習) ・時間

事前学習として、配付資料に目を通し、自身の疑問点、意見などを整理しておくこと (90分)、
事後学習として授業で学んだ内容に関して復習をし、疑問点などが解消しているか確認しておくこと (90分)

テキスト

講師作成の講義プリントを配布する。

参考書・参考資料等

坂口幸弘著『悲嘆学入門－死別の悲しみを学ぶ』昭和堂,2010年。その他講義中に適宜紹介する。

学生に対する評価

レポート評価 (100%)

ルーブリック (目標に準拠した評価)

- (C) 悲嘆の心理を理解するための基本的な心構えができています。
(B) 悲嘆の心理に関する基本的な知識を身につけている。
(A) 悲嘆の心理に関する知識を身につけた上で支援時に必要な態度を理解している。
(S) 悲嘆の心理に関する知識を身につけた上で支援時に必要な態度を理解し、かつ、自らの支援時の心構えについて説明することができる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。課題レポートには講師からのコメントを付し、返却を行う。

その他

実務経験のある教員が行う授業内容 (どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

臨床心理士・公認心理師・スピリチュアルケア師 (指導) ・認定臨床宗教師として実務経験を持つ専任教員により、悲嘆の心理過程やその特徴についての講義を行い、また、自他の悲嘆体験を内省し受容するためのグループワーク演習を通じて、悲嘆を受け入れていく過程を支援するための姿勢や態度について身につけさせる。